

ERIC 通信 第18号

2004年10月15日発行

拠点、新たに・・・

事務局長 角田 尚子

引っ越しの完了というのは、荷物の移動のことではなく、新たなシステムがしっかりと動き出した時のことなのだと思います。その意味で、ERIC がこの一年取り組んで来た「発転課題プロジェクト」の評価は、9月・10月にここで実施するファシリテーター養成講座の成否によると言えるでしょうか。

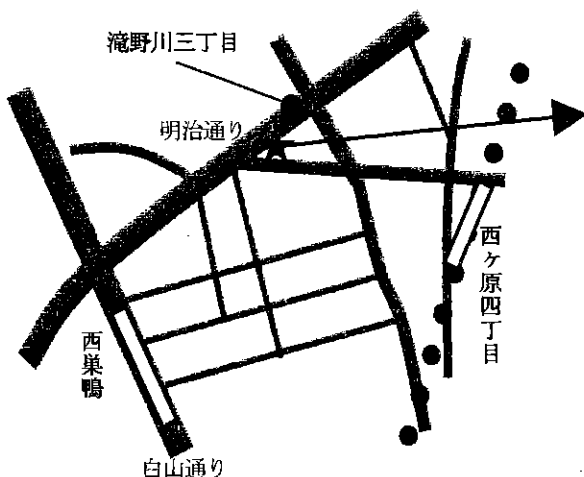
新たな事務所は明治通りに面したワンフロアです。池袋からバスで10分、羽田空港から京急に乗って、都営三田線に乗り換えて西巣鴨まで約1時間。東京駅からは大手町に出てやはり都営三田線が20分程度と、便利かもしれません。

まだまだ場所としての発展力は未知数ですが、「ワークショップ」や「学習会」の場として活用していきたいということ、明治通り沿いに7メートルもある明るいガラス面を「プレゼンテーション・エリア」に、つまり、地域との接点として大切に発信力を高めていきたいと思えます。まずは、「わかる! 喜びのある教育を!」パンフレット・シリーズを始めます。

わたしたちが生きる21世紀、さまざまな国際的な人類共通の課題に直面する時代にとって、持続可能な開発のための教育指導者育成が不可欠の課題です。ERIC がこの15年来取り組んで来た「参加型学習指導者育成事業」の意義が、いま注目を集めつつある教育議論にしっかりと取り入れられていくように、わかりやすい発信を目指したいと思います。

思い出してください。小学校に入学する時、中学校に進学する時、そして高校を選び、大学を受験し、そこで自分が何を身につけ、何ものになれるのか、確かなことはわからなかったはずですが。教育は、あくまでも、その場のさまざまな相互作用、集団のダイナミズムによるものなのです。ERIC の構想する「ESD ファシリテーターズ・カレッジ」では、2年間のコースを受講することで、「人間教育の発展の結果としての参加型学習の理念を理解できる」「その理念の表れとしての参加型学習の方法が身に着く」「より高い質の教育を提供する力が現場において発揮できるようになる」ことを目指しています。ビジョンを共有した時間・空間・仲間によって、育つ場を提供したいのです。

そのような指導者育成の場と機会が現実のものとなるように、ぜひ一緒に取り組んで行きましょう。



ERIC (特活) 国際理解教育センター

〒114-0023 東京都北区滝野川1-93-5 コスモ西巣鴨105

tel: 03-5907-6054(研修系) 03-5907-6064(テキスト系)

fax: 03-5907-6095

ホームページ <http://www.try-net.or.jp/~eric-net/>

Eメール eric-net@try-net.or.jp

交通

- ・都営三田線「西巣鴨」駅より徒歩3分
A2出口より右方向へ、コンビニエンスストアの角を曲がって150m
- ・都電荒川線「西ヶ原四丁目」駅より徒歩5分
- ・池袋駅から都営バス 西新井駅・王子駅行きで15分、「滝野川三丁目」バス停下車徒歩3分

「平和」ファシリテーター養成講座

— 平和的に社会をかえて生きるには —

◎2004年10月9日～11日(全9セッション)

◎参加者: 18名(ERICメンバーを含む)

◎場所: ERIC 国際理解教育センター

今年度から ERIC のファシリテーター養成講座は、目標を「持続可能性のための教育」指導者育成としました。持続可能性という目標の達成こそ人類共通の課題の総称であり、「人類のめざすもの」を教育的ツールに活用することの実践として、「平和」講座を新たに加えました。

■「対立の扱い方」講座と「平和」講座

今年度、対立・紛争の扱い方について学ぶ講座として、「対立の扱い方」講座と「平和」講座の2つがあります。

「対立の扱い方」講座では「わたし」と「あなた」を巡る対立、「平和」講座ではわたしたち「みんな」の課題である対立・紛争を扱いました。これは単に扱う対立の規模が大きくなっただけではありません。平和な社会を創造していくために解きほぐすべき対立を扱うには、個人対個人の対立を解決するスキル以上の何かが必要だろうという問題意識からです。平和講座で、実践されている紛争解決の方法論の体験として「トランセンド法^{*}」を選択したのも、「win-winを越える新しい価値の創造」という考え方に共通のものを感じたためです。

■「平和」講座のねらい、実施内容と成果

講座のねらいは以下の2点です。①「動くからだ」をつくるこれからの平和教育を考え、カリキュラムを開発する。②平和のための教育を進めるファシリテーターの課題を検討する。

セッション3から5にかけての「これまで行われてきた平和的な社会変革のための手段を学ぶ」では、「非暴力トレーニング」の一例を体験し、それを「市民性の教育」に位置付けるためには、どのような展開が必要かを考えました。ここでは、市民としての自分の権利や法についてほとんど知らないという気づきが原動力になりましたが、市民性についての共通理解づくりに課題も残りました。

また、平和な社会を創造していくために解きほぐすべき対立として、沖縄の基地問題と日本における難民の受け入れという具体的な事例を取り上げ、「トランセンド法」による超越的な解決案の模索と和解に至る手順を、分析の手法を用いて、参加型で検討を進めていきました。

対立・紛争を平和的に転換するための超越案が出たとしても、それを実現するまでのプロセスが容易でないことは誰もが想像できます。しかし現実の課題、社会の課題である以上自分と無関係ではありえないのですが、直接痛みを感じないために深く考える機会を逸している課題を、今回のように自分にひきつけて、他の人たちといっしょに解決の道を探る作業が、社会のあちこちで行われることが、これらの課題を解決に近付けるであろうことも、実感しました。

そして、対立の解決・転換において、歴史の共有、時間と空間を共にすることが有効であり、重要であることを確認し、和解のプロセスに至った後に、新たな考え方が出現する現実に対してのピースメーカーの心掛けを出し合いました。「新たな視点、参加者、動きを歓迎する」と言える人間や社会に対する信頼が、今回の講座の成果の一つと言えるのではないのでしょうか。

来年度の「平和」ファシリテーター養成講座は、今回の成果や課題を活かし、テーマ設定、方法論をより洗練させ、一歩進化した提案をしたいと考えています。どうぞご期待ください。

(コーディネーター: 木野美穂)

※トランセンド法: ノルウェーの平和学者ガルトゥング博士が提唱する、共感、対話、創造力によって紛争を転換させる方法論

◎今回の「平和」講座の詳しい記録は、レスズンバンク 16 で紹介します(2005年3月発行予定)。ご参照ください。

■3日間の実施プログラム

	第1日目 共通基盤づくり	第2日目 平和のために動く からだをつくる	第3日目 平和の文化を創る
10:00-12:00	<セッション1> 平和・平和な社会を考える ●安心感のある場づくり ●平和な社会のイメージ	<セッション4> トランセンド法の応用 ●全ての当事者の確認 ●受容可能な目標の設定(超越案の検討)	<セッション7> 平和教育のカリキュラムづくり ●世代間の育ちの違い ●カリキュラムづくり
13:00-15:00	<セッション2> 過去の共有・平和教育の目標 ●人類と平和の歴史と私 ●平和教育の目標・特徴	<セッション5> トランセンド法の応用 ●和解のプロセス	<セッション8> カリキュラムの共有 ●評価の視点づくり ●カリキュラム発表
15:10-17:10	<セッション3> 非暴力トレーニングの体験 ●社会変革と市民 ●非暴力トレーニングの体験	<セッション6> ふりかえり・学びの確認 ●ピースメーカーの心がけ ●内容と手法のふりかえり	<セッション9> ふりかえり、今後に向けて ●課題解決・行動計画づくり ●3日間のふりかえり

「まちづくり町民会議」—循環型社会を目指して、ごみ削減に取り組もう！—

ごみ削減を目指した市民と行政の協働ワークショップ

ERIC は今年度、愛知県の甚目寺町で進められているごみ削減を目指した取り組みを支援してきました。「まちづくり町民会議」と題した会議に、町民と行政職員が参加し、循環型社会の実現を目指した話し合いや取り組みを協働で行っています。

会議は6月から始まり、10月で全8回を終えました。8回のうち、4回がERICのファシリテーター担当するワークショップ形式で話し合いを行い、またそれ以外には、ゲストを招いた勉強会やごみについての住民調査・集計を行いました。

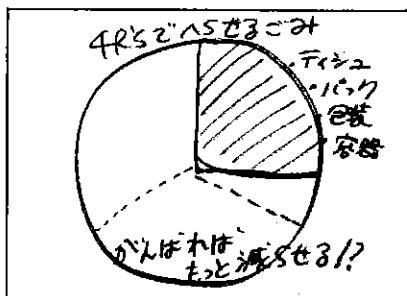
全体の流れとしては、多様な人々が社会的に合意形成・行動計画づくりを行うための会議「フューチャーサーチ会議」の構造に準拠しています。すなわち、第一回会議で町のごみについての「過去の共有」などの共通基盤づくりを行ったあと、町のごみについての「現状分析」と住民の意識・実態調査を実施し、どんな町にしたいのかという「ビジョン」を共有したうえで、ごみ削減の対策をつくっていくための検討と調査を行い、今後に向けた提言書や「行動計画」づくりを行うというものでした。

自分たちが普段出しているごみの分析や住民調査の結果から、4R*のそれぞれでできることを行い、また一人ひとりがしっかりごみの分別を行っていけば、ごみの量をきつとまだまだ削減できる！、さらに、町のごみ処理にかかっている7億円をどのように循環型社会としての使い方にシフトしていくか、そんな課題が見えてきました。そして、それらの課題を多くの住民に広め、取り組みを続けてくために、ごみについてのルールブック作りや子どもたちとの協力、モデル地区制度による取り組みなどのアイデアがでました。8回目の会議では、今後も話し合いをつづけようという声が上がリ、アイデアをどのように実現していくかをこれから話し合っていきます。提言内容の検討会、処分場の見学会などのネクストステップが決定されました。

環境省によると、日本は平成22年までに12年度比で20%のごみ削減を目標としています。循環型社会のビジョンを持って、市民・行政・企業が協働で取り組みを進めていく必要があります。一人ひとりにどのようなことが求められるのでしょうか。あなたの地域でも、ともに話し合い学びあう「町民会議」を開いてみませんか。ぜひ、ERICとともに「まちづくり」をすすめましょう。



まちづくり会議の話し合いの様子。町民18名、行政6名が参加しています。



自分が普段出しているごみを100%としたら、何%くらいが4Rの実践で減らすことができるか考えてみよう。

※4Rとは
Refuse 断る、Reduce 減らす、Reuse 再利用する、Recycle 再生利用する

ERIC インターンとしての思い

牧由希子

私は、'94年～'96年までブルンジやルワンダからの難民を収容していた難民キャンプで教育支援活動を行っていた。ユネスコのプロジェクトで活動していた頃、同僚のオーストラリア人女性が医療関係のNGOから難民のヘルスワーカー向けにコミュニケーションスキルのトレーニングを依頼された。当然のことながら難民キャンプが設置されるような場所は、首都や町からも遠く離れ、通信手段も無線や衛星電話しかない。そんな現場では参考資料、教材、模造紙やポストイットなどの文房具も手に入らず、全て都市から持ち込まなければならない。トレーニングを引き受ける際に彼女がそのNGOから手渡されたのは一冊のヘルスワーカー向けのトレーニングマニュアルだけだった。それをもとにワークショップのあらゆるアイデアが彼女の頭からどんどん出てきて、参加者を全く飽きさせずにワークショップを運営していった。これが、私のファシリテーションとの最初の出会いだった。

任期を終え、帰国後もファシリテーションのことがずっと頭にありながら、いつかスキルを身に付けて自分の活動に役立てたいと考えていた。そんな時、同僚から「こんなNGOがあるみたいよ。」とERICを紹介され、ファシリテーター養成

講座に初めて参加したのは、今から7年前のことである。その時の講座は今でも一番心に残っていて、いつか、もっと時間をかけてERICが持っている手法をじっくり学びたいと考えていた。

今年になってJICAの研修制度に応募し、やっとERICでの研修が実現した。あの思いから7年もかかったことになる。そんなERICでの私の研修の一環として、今自分が居住している沖縄の農村でPRAトレーニングを計画している。それは、やはりちょうど7年前にERIC事務局長である角田さんが、ワークショップを開催していたヤンバル地区であり、同じ地域で今年インターンに入った自分が再びワークショップを計画しているというのは、何とも素敵な偶然である。

どんなところでも、その地域で暮らす人々と共感し、共有できる学び合いの場づくりを行っていけたらという思いがあって、ERICでのインターンとしての学びの日々を送る私である。

牧さんがコーディネートする「PRAファシリテーター養成講座」を11月19日(金)～21日(日)の3日間、沖縄で行います。参加希望の方はERICまでお問い合わせください！

ERIC 新事務所のご紹介!

地鐵 ← 明治通() → 王子

新事務所のレイアウトです。

100 平米たらずですので、50 平米ほどの教室サイズの「広場」を確保するために、業者さんいわく「変わったレイアウトですね」になっています。

ちょっと使い勝手をインタビューしてみました。

-渡辺さん、いちばん長時間ここにいますが、どう?

「明るいですね。道行く人が覗き込む視線を感じるので、ぜひ、もっと ERIC について知ってほしい、という気持ちが湧きます。これからだと思います。」

-鬼木さん、引っ越し作業の中核を担っていただきましたが。

「最後はばたばたと、段取り悪かったこともありましたが、バックヤードがいいですね。エントランスのテキスト閲覧の充実とか、プレゼン・エリアには緑や花を、とが、ゆっくり楽しみながら育てていきたいです。ERIC としても育ちながら。」

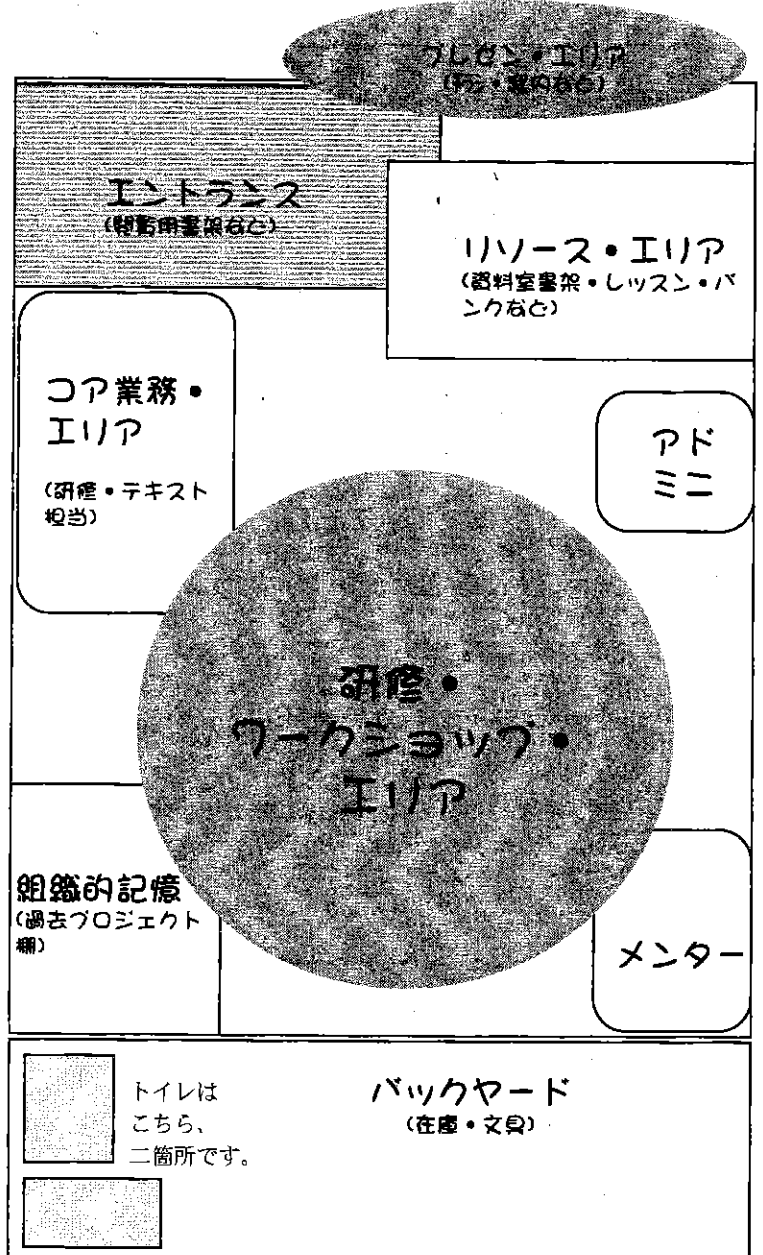
-いやー、飯塚さん、ご苦労様でした。すごかったですね、諸手続きが。

「なんとかね。ちょっと綱渡りのなところもあったけれど、こんなものでしょ。ERIC にはちゃんと伸びてほしいから、いらぬコストはパンパン節約しましたよ。みんなで手をかけていけば、良くなるんじゃないですか。」

-わがままな角田さん、一番広々とした机とかゲットしてありますが。「ま、エリア名でも明確だけど、心のゆとり、これからの指針が、わたしの役目でしょうから。なんでみんなもっとわがまま言わないのかな? 不思議。主張なしで協力はないのにな。言えはいいのに、..」.. アイカワラズだね。

資料室書架は、27 日引っ越し当日一番にみんなで協力して片付けました。まだまだ片付けが済んでいないところが多いのですが、次を作りながら整理し、システム構築していくのが基本だと考えています。これからもよろしく!

(角田尚子)



INFORMATION ともに学びを広げよう!

★ERIC 資料室を活用しよう! (資料室利用料 500 円、月・火・木・金 11 時~18 時、事前にご連絡ください。)

ERIC のファシリテーターが利用し蓄積している一般書籍や資料(日本語文献約 2000 点、英語文献約 1000 点)を公開しています。ERIC のテキストや教材も閲覧可能です。あなたも ERIC に来て学びを広げ深めませんか。

★メールマガジン「ERIC NEWS」で ERIC の情報をお届けします。

不定期でメールマガジンを発行しています。電子メールで活動案内や報告などの情報をお届けします。ご希望の方は、ホームページより「ERIC 電子メールマガジン登録フォーム」をご利用ください。また、E-mail アドレスをお知らせいただければ登録いたします。(なお、個人情報厳重に管理し、メールマガジン送信以外の目的では使用されません。)

★「ファシリテーター養成講座」をあなたの地域で!

ファシリテーター養成講座を ERIC とともに開催する個人や組織を募集しています。人権教育、環境教育などのファシリテーター養成講座や、地域の課題解決を考える講座など、地域の状況やニーズに応じます。「ESD ファシリテーターズ・カレッジ」をいろいろな地域で、みなさんとともに進めたいと考えています。ぜひ、ご連絡ください。